

郷土資料館ウィンタースクール

「化石のレプリカを作ろう」のお知らせ！

石こうで、アンモナイトやマンモスの化石のレプリカを作ります。色もぬることができます。ぜひ、ご参加ください。

- 日時 平成25年1月10日（木）、11日（金）
午後1時～4時
- 場所 別海町郷土資料館
- 参加対象 小学生
- 内容 ①アンモナイトコース（低・中学年向け）
②マンモスコース（中・高学年向け）
- 定員 両日とも10名限定とします。電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を12月28日（金）までにご連絡ください。



特別企画第3弾 郷土資料館 ふるさと講座・自然系第4回目

「2012 地質の日記念行事 in・BETSUKAI」を実施しました。

とき 平成24年11月3日（土）午前10時～17時

ところ 郷土資料館・根室市ガツカラ浜・参加者数 25名

内容 ●午前の講演会

- ①「根釧台地の生い立ち」在田一則氏（北海道大学総合博物館）
- ②「別海周辺の大地の恵みー温泉について」中川充氏（産業技術総合研究所）
- ③「風蓮湖周辺の海岸地形とそれから読み取れる地殻変動」七山太氏（産業技術総合研究所）

●午後のジオツアー

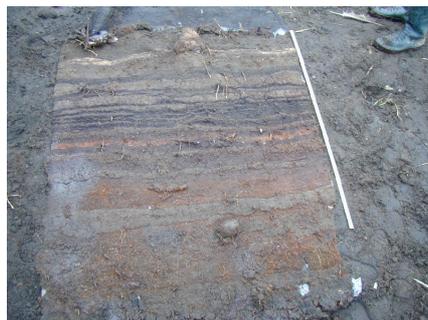
- ④「根室市ガツカラ浜での巨大津波痕跡の観察」

案内者：重野聖之氏（茨城大学大学院理工学研究科/ 明治コンサルタント）七山太氏（産業技術総合研究所）

午前の講演会は、上記の内容で講師の方からのお話を聞きました。在田氏は、根釧台地の生い立ちを地球規模から解説し、中川氏は、なじみのある温泉について、七山氏は現在調査を進めている風蓮湖周辺の海岸地形のお話をいただきました。特に風蓮湖・走古丹の地形は日本ではここにしかなく、私たちが暮らしている道東地方には貴重な自然遺産がたくさん残っていおり、これらを解明することは今後の生活にも密接に関係してくるという内容でした。参加者からの活発な質問も多く出ました。



午後のジオツアーは、根室市ガツカラ浜での巨大津波痕跡を観察しました。4千年の間に太平洋沿岸では、300年～350年の周期で地震や津波があったと考えらるとの説明を地層断面を見ながら解説いただきました。地層の剥ぎ取りも見ることが出来ました。



近世の別海を探る 野付～その2～

ノツケ-1

文献資料での表記は、「ノツケ」です。野付半島の先端部分を指し、寛政11年(1799)には、幕府により国後島への渡海のための要所として「野付通行屋」が設置されました。また、その対岸の外海側は鯨漁場で春になると周辺の各番屋から人々が集まり、漁をしていたことから、出張番屋群が形成されていました。

○地名の由来

- ・「顔のあごの事をノツケと云、出崎と云事」『東行漫筆』荒井保恵 文化6年(1809)
- ・「夷語ノツケウなり。則、頤といふ事。昔時、此所へ大きな鯨流れ寄て、其頤此崎となる故、字になすといふ。」『蝦夷地名考并里程記』上原熊次郎 文政7年(1824)
- ・「此所一ツの岬にして腮(ノツキ)の出たる如きと云義也。ノツケはノツキの訛り也。」
『東西蝦夷山川地理取調紀行 知床日誌』松浦武四郎 安政5年(1858)
- ・「ノツケの訛り 此処頤(ヲトカヒ)に似たるゆへ」『蝦夷地名奈留邊志』松浦武四郎 安政6年(1859)
- ・「ノツエケウイ 崎惣体」『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

別海町郷土資料館だより No.161

発行日 平成24年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

冬が到来したようです。雪は少ないですが、先日外を歩いていても骨身にしみる風が冬だと実感させてくれました。今年も残り1ヶ月早いと感じるのはわたしだけでしょうか。風邪などひかず過ごしたいものです。(K.I)